

# 養護教諭部会

## I. 研究の概要

### 1. 研究主題

健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして

### 2. 主題設定の理由

近年の少子高齢化、核家族化の進行や、都市化、情報化の進展など、社会環境や生活様式の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、生活習慣や環境に起因する疾患やアレルギー性疾患、新たな感染症の増加など、健康課題を多様化させている。同時に、人間関係の希薄化、幼少期に経験することが望まれる様々な生活体験・社会体験・自然体験の機会の減少は、他者への関心や愛着、信頼感を育てる大切な機会を減少させ、人との関わりをつくることやコミュニケーションをとることがうまくできない子どもたちの増加につながっているように思われる。子どもたちの健康課題には、その背景に自己肯定感や自尊感情の低さが存在することが少なくない。対人関係によるストレスや不安などから、からだに不調をきたす事例もある。

このように複雑で変化の激しい社会において、私たちは、子どもたちの自己肯定感・自尊感情を高め、自分自身も他者をも大切にできる子どもを育てたいと考える。それをもとに健康に関心をもち、考え、主体的に判断し、自らの目標に向かって生き方を選択・追求できる力をもった子どもを育てたい。

そのためには、養護教諭として、子どもたち一人ひとりを大切に受容し、職務の特性を生かした実践をとおして具体的な対応や支援のあり方を探求することが重要と考える。

具体的には、常に「養護」とは何かを問い続け、子どもの健康と人権を守り育てる養護実践を深めながら、確かな連携方法を模索し、家庭や地域社会、教職員に対する効果的な情報発信の方法を検討するとともに、健康課題について、家庭と学校が課題を共有しながら全体で対応する取組をすすめていく必要がある。

以上のように、複雑かつ多様化した子どもたちの健康課題に対し養護教諭の視点を大切にしたい取組みが必要と考え、標記の研究主題を設定した。

### 研究の経過

平成16年度から10年間、「健康について考え、自分らしく生きていくことができる子どもの育成をめざして」という研究主題のもと、子どもたちの個々の健康・発達課題に寄り添い、対応の手立てや支援のあり方を研究し実践してきた。子どもたちの健康課題は、ますます複雑で多様化している。今後も養護教諭の特性を生かした養護実践を継承しつつ、さらに深め発信していくことが重要であるとおさえた。その課題解決に向けて、26年度以降、新しい研究主題のもと、各ブロックは具体化した主題を設定し研究を推進してきた。さらに各ブロックの連携を深めることにも重点を置き、今日的な課題を共有し、より研究を深めてきた。さらに、第二次研究協議会の分科会は、研究計画に基づく、積極的な討議があり、実技・理論研修会は、会員一人ひとりの課題の解明と日常の養護実践に結びつく成果があった。

29年度は、2年継続研究のまとめの年にもなるので、各ブロックの研究成果を他ブロック・全会員で共有することをめざし、拡がりをもった視点で研究を発展させていきたい。

### 3. 研究内容

#### <研究内容1>

子どもたちの実態を把握し、問題点を明確にする。

#### <研究内容2>

子どもたちが自己肯定感をもち、自分らしい選択をし、人とのつながりを大切にしながら生きていけるよう、支援のあり方を検討する。

#### <研究内容3>

保健室で気がついた子どもたちの実態について、教職員・家庭・社会にどのように発信・連携していくのか、その方法を検討する。

#### 4. 研究方法

- (1) 会員一人ひとりの日常実践に基づいた市町村ブロックの共同研究を推進する。
- (2) 理論研修会や実技研修会を開催し、日常実践や今日的な課題解明につなげていく。
- (3) 各ブロック間の連携を深め、より一層、研究が深まる取組をする。

## II. 研究の経過と成果

### 1. 全体の実践の経過

#### (1) 役員研修会・推進委員研修会の内容

- 4月11日 今年度の業務・研究計画の確認
- 5月18日 研究協議会・次年度研究計画について
- 7月6日 研究協議会・実技研について
- 9月14日 研究協議会・ブロック研究レポートについて
- 2月20日 研究協議会反省・研究活動の反省・次年度へ向けて

- ・ ブロック情報・部会情報の発行
- ・ 推進委員研修会ごとのブロック交流
- ・ 部会HPの更新

#### (2) 実技研修会

- 8月29日(火) 石狩教育研修センター  
保健室でも大活用！「校内装飾に役立つ掲示物を作ろう」  
指導者 石狩市立生振小学校 小柳 綾香 教諭

#### (3) 第二次研究協議会

- 10月13日(金) 石狩市立南線小学校
  - ・ レポート発表
  - ・ 分科会 (保健室小・保健室中・救急処置・アレルギー・相談活動)
  - ・ 掲示物交流
  - ・ 理論研修会 「子どもの健やかな成長のために足の健康と靴の知識」  
～足育とは？～  
講師 株式会社 リハ・イノベーション 代表 野崎 円 氏

### 2. 各ブロックの研究と成果

#### <江別ブロック>

##### 1. 研究主題

「自分のからだと向き合い、自ら考え行動できる子どもの育成をめざして」  
～支援のあり方を通して～

##### 2. 研究の内容

食物アレルギーについて「配慮を要する児童生徒グループ」「救急処置グループ」「相談活動・保健室支援グループ」の3グループにおいて、昨年度整理されたそれぞれの課題を検討し、実践に結びつけるために学習を深めた。

具体的には、アレルギーの調査表についての検証、緊急時マニュアル及びアレルギー対応医療機関マップの作成、保護者・児童生徒への啓発資料の作成を行った。

##### 3. 研究の成果と課題

昨年度に引き続き研究をすすめることで、課題の解決や今後の見通しを持つことができた。3グループで研究することによって、幅広い内容に取り組むことができた。

今後は、グループの実践内容を全体のものとし、食物アレルギーのある児童生徒と周囲の児童生徒が共に生き共に育つ「共生共育」の取組をすすめていきたい。そのために必要な手立てと具体的な発信について、さらに研究を深めながら、実践結果の検証・評価を行い、次年度へとつなげていきたい。

## < 恵庭ブロック >

### 1. 研究主題

自分のからだと向き合い、自ら選択し表現できる子どもの育成をめざして  
～養護教諭のスタンスを見つめなおして～

### 2. 研究の経過と成果

学校保健安全法施行規則の一部改正、および学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドラインの健康施策を受けて、「健康診断」「アレルギー対応」について研究をすすめた。

1年次は、各学校の実態の把握として、「保健調査」と「アレルギー児童生徒の対応」を交流し実践校に学んだ。2年次は「児童生徒の健康診断マニュアル」と「食物アレルギー対応ガイドライン」の分析を行った。「誰のため」「何のため」「プライバシーに十分配慮するとは」など養護教諭としてどんな視点が必要で、養護教諭のスタンスどうあるべきかを確認した。今年度は、「養護教諭のスタンス」の観点をおさえながら、「健康診断」「アレルギー対応」「その他の保健活動」において13校の実践から学んだ、自分自身の気づきや意識はどうか変わったか、子どもにどのように向き合っていたらよいかを明らかにした。

### 3. 研究のまとめと今後の方向

健康施策を分析し学習したことにより、養護教諭の視点から「養護教諭のスタンス」を明らかにできた。それを目的や目標に設定し各学校で実践を行いその成果を発表した。そして新たな課題が明確になった。

色覚については、ユニバーサルデザインの意識定着を基本として、子どもや保護者に対し適切な対応ができるよう学校の体制を整えておく必要があることを確認した。アレルギーの対応については、校内の体制づくりを整えるとともに、教職員の理解はもちろんのこと、教育面からの子どもたちへのアプローチが必要であることを確認した。

今後も常に「誰のため」「何のため」を視点に、養護教諭としてのスタンス確認し、子どもの安心安全のために何が必要なのか、どの方法が最適なのかを検討しながら取り組んでいきたい。

## < 石狩ブロック >

### 1. 研究主題

子どもとつむぐ 心かよわす保健室づくり  
～効果的な執務をめざして～

### 2. 研究の経過と成果

昨年度より上記ブロック研究主題のもと、テーマ別にグループ交流を行ってきた。今年度は各グループであがってきた課題を研究の視点に設定した。それをもとに各校で実践し、効果的な執務となっているか検証した。

それぞれのグループ毎に様々な課題があった中で、身体的なことだけではなく、共感的な態度を示し心に寄り添うことで、子どもたちがより一層自分のことを話すようになったり、自分の内面に目を向けることにつながっていったり、こちらからの発信の形によっては子どもたち自身が気づけないことに目を向けさせることができたことが成果と考えた。

### 3. 研究のまとめと今後の方向

2カ年計画の研究で、「健康診断」「掲示物」「記録用紙小学校」「記録用紙中学校」の3グループ・4班に分かれて研究を進めた。

それぞれのグループ毎に焦点化した課題について交流し、研究を重ねることによって検証を活かした研究をすることができた。ただ、今回の研究が着地点ではなくこの結果を執務の中で更に検討や実践を重ね、共有していくことが重要と考える。来年度からの研究ではよりよいテーマや形態について活発な意見交換を重ね、充実した「子どもたちのためにできること」を深めていけたらと考えている。

## ＜千歳ブロック＞

### 1. 研究主題

自分のからだと向き合い、主体的に生きていく子どもの育成をめざして

### 2. 研究の経過と成果

平成 26 年学校保健法施行規則の一部改正による健康診断項目の見直し、平成 27 年度フッ化物洗口の市内小学校への導入、校務支援システムの導入など、様々な動きが数年の間にあった。また、毎年のように全国各地に起きている自然災害について、危機管理や保健室の備えを再確認するの必要を感じていたこともあり、平成 28 年度はそれらについて学習を深めながら研究主題にせまる執務のあり方はどうあるべきかを検討してきた。

平成 29 年度は「健康診断（小・中）」「校務支援システム」「災害時における保健室の役割」をテーマにグループにわかれ、昨年度みえた課題解決のために各校の実践を交流しながらすすめた。この研究から、私たちが日々行っていることが目指す子どもを育てることにつながっているかどうかをあらためて振り返ることができ、また、工夫した実践を交流することで他校の様子を知り自校の取組に活かすことができ、大変有意義であった。

### 3. 研究のまとめと今後の方向

様々な場面で、子どもたちの主体性を大切にすることと、効率性、プライバシー配慮との兼ね合いの難しさをあらためて考えさせられる研究であった。今後は、その点についても十分に検討しながら子どもの主体性を尊重するような執務のあり方をさらに考える必要がある。また、グループ内の研究を中心にすすめてきたが、今後は全体の交流を積極的に行いながら日々の執務をすすめていきたい。

## ＜ 北広島ブロック ＞

### 1. 研究主題

色のバリアフリーへの取り組み  
～誰もがわかりやすい環境を～

### 2. 研究内容

今年度は、2年研究の1年次目になる。そこで、自分たちが色のバリアフリーについて学び、誰もが分かり易い環境を作るために必要なことを知るところから始めた。

まずは理論研修を行い、それを元に教職員向けの資料を作成して配付した。10月には講師の栗田マサキ氏とワークショップを行う予定になっている。また、各学校での色覚検査に関することについて調査を行い、今後の実践に向けた資料にする予定である。

### 3. 研究の成果と課題

理論研修で学ぶことによって、私たちの意識が新たになり、資料を作成して教職員に色のバリアフリーについて考えてもらうきっかけを作ることができた。

今後は、ワークショップで得られた知識や体験と、色覚検査に関わる調査結果をふまえ、色弱の児童生徒への対応の仕方や、バリアフリーに向けた環境の工夫に取り組んでいきたい。

## ＜当別・新篠津ブロック＞

### 1. 研究主題

健康について考え、自分らしくすこやかに生きる子どもの育成をめざして  
～執務の見直しを通して～

### 2. 研究の経過と成果

養護教諭の執務を見直す中で、主に下記3点について工夫点などを実践交流した。

- ①「健康診断」：新たに必須項目となった検診について情報交換ができ、プライバシーへの配慮についても考えることができた。
- ②「救急バッグ」：実物を持ち寄ったことで、定番の中身にとらわれずに職員の声キャッチすることも大切だと感じるなど、自校の救急バッグを見つめるよい機会になった。
- ③「入室者記録とその活用」：気になる児童生徒を継続してみたい手段となることや教職員への連絡を確実にを行うためにも有効であると再確認することができた。さらに、集計結果の周知には、養護教諭が伝えたいことと、教職員が知りたい情報を網羅した上で、なおかつ集計結果の表示に配慮する必要があると考えさせられた。

### 3. 研究のまとめと今後の方向

当別町・新篠津村では、養護教諭は1校に一人の存在である。他校の実践を知ることで、新たな発見や気づきを確認し合えたことは有意義であった。当新ブロックは人数が少なく、交流する方法や具体物の数が多くはないが、日常の不安や悩みといった声を即刻取り上げることができるメリットがある。経験年数や校種、2つの町村の違いからうまれた気づきや学びを確認し合えたので、今後も研究で得た多くの成果を執務に反映していきたい。

## Ⅲ. 実技・理論研修会

### 1. 実技研修会

テーマ 保健室でも大活用！

「校内装飾に役立つ掲示物を作ろう」

指導者 石狩市立生振小学校 小柳 綾香 教諭

8月29日(火) 14:30～  
於) 石狩教育研修センター

#### (1) 切り紙の花かざり

色上質紙や画用紙、折り紙などを使って、花かざりを作成した。壁に貼ったり、天井から吊るしたり、いろいろな飾り方が楽しめる作品。



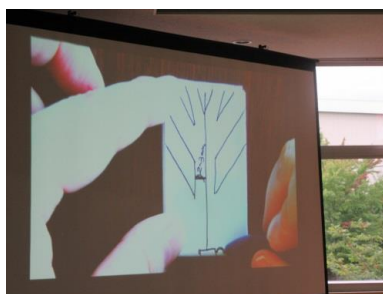
## (2) ヒンメリ

ヒンメリとは、フィンランドの伝統的な装飾品のことで、藁に糸を通して、多面体になるようにつなぎ合わせて吊るすもの。今回はその藁と糸の代わりにストローとワイヤーを使い作成してみた。カラフルなストローを用いたり、多面体の作り方を変えたり、また中に飾りを入れるなど、いろいろな工夫をすることで、様々な場面で活用できる。



## (3) 雪の結晶

上質紙を決められた通りに、折って切り抜くと、きれいな雪の結晶の完成。



10月13日(金) 13:30～  
於) 石狩市立南線小学校

## 2. 理論研修会

テーマ 「子どもの健やかな成長のために足の健康と靴の知識」  
～足育とは?～

講師 株式会社リハ・イノベーション 代表 野崎 円 氏

### (1) 足育とは

「足育」とは、足について正しい知識を得て、いつまでもトラブルのない足を育てること。昨今、子どもの9割に足の変形があるとも言われ、足育の大切さを実感した。

### (2) 正しい子どもの靴選び

- ①甲の高さ（紐やワンタッチテープなど）が調整できること
- ②つま先は広く厚みのあるもの
- ③つま先が少しそり上がっているもの
- ④かかと部分がフィットするもの
- ⑤靴底に適度な弾力があるもの
- ⑥足の曲がる位置で靴も曲がるもの



### (3) 子どもに多い足のトラブル

- ①扁平足
- ②外反母趾
- ③内反小趾
- ④ハンマートゥ
- ⑤浮き指



## 3. 研修会の成果

### (1) 実技研修会

日々の学校生活の中で、ふとしたことから、掲示物が子どもたちの心を癒してくれたり、心を開くきっかけとなることがある。今回の実技研修会では、特に、心の癒しにつながるような掲示物の作り方やより効果的な掲示の方法を学ぶことができ、大変有意義な研修となった。

### (2) 理論研修会

子どもたちの間で、外反母趾や扁平足、浮き指などが急増していると各種メディアなどでも取り上げられている。その背景に子どもたちの運動不足による体力・運動能力の低下があるとされている。子どもたちが運動不足になっている直接的な原因として、外遊びやスポーツ活動時間の減少や空き地などの子どもたちの手軽な遊び場の減少、少子化や学校外の学習活動（塾や少年団など）による仲間や時間の減少などが考えられている。そんな子どもたちの取り巻く環境を理解し、積極的にからだを動かす機会を作っていくことも大切な足育の一つと考えられる。また、それと同時に靴選びも重要で自分の足に合った靴を、正しく選ぶ方法も学ぶことができた。

足育を通して、足のトラブルを未然に予防する手立てや、生涯の足の健康につながるポイントを研修することができた。

## IV. 第二次研究協議会

### 1. 分科会討議

#### <保健室（小）①②>

- ・複数の教師で子どもの情報を共有することで、問題の早期発見、早期対応につながっている。
- ・最近の子ども、親、先生方、学校を取り巻く環境について、活発に交流することができた。
- ・事例交流を行うことにより、各校の様子や日頃行っている子どもや保護者への対応、教師との連携の仕方の工夫など交流することができた。

#### <保健室（中）①②>

- ・保健室登校を受け入れるにあたっては、校内の協力体制を整えておくことが必要不可欠である。
- ・保健室は、心身の健康問題を発見しやすい場所であり、不登校へのサインに気づくことも多い。そういった養護教諭の特性を理解し、日頃からきめ細かい健康相談を行い、不登校の未然防止に努める必要がある。

#### <救急処置①②>

- ・多くの事例を振り返ることで、児童生徒の既往歴に関わらず、様々な場面を想定した校内救急体制および危機管理体制づくりの大切さを再確認した。
- ・養護教諭だけではなく、学校全体としての迅速な対応が大切であるため、他の教職員との共通理解を深め、行内研修等を活用した実践的な取組も必要であると感じた。
- ・受診の判断基準や観察ポイントを明確にして、養護教諭としての根拠に基づき判断することが大切なことを改めて認識することができた。



## <アレルギー>

- ・各校のアレルギー対応について多くの意見交流を行い、課題の共有をすることができた。
- ・校内研修の方法やアレルギー対応マニュアルの共有が出来た。
- ・校内研修でのシミュレーション通りには行かない点も多くある。臨機応変に対応する力が必要である。
- ・学年や発達段階に応じてアレルギーに関する子どもの対応能力を育てていくことが必要であると感じた。
- ・受診の判断基準や観察ポイントを明確にして、養護教諭としての根拠に基づき判断することが大切なことを改めて認識することができた。

## <相談活動>

- ・養護教諭の「この子気になる」という感覚や子ども達のつぶやきを丁寧にひろうことが大切だということを再確認することができた。
- ・担任や関係の職員、場合によっては外部の関係機関なども巻き込んで、みんなで対応していく体制づくりが今後必要であると感じた。

## 2. 掲示物交流

今年度は各ブロックによる掲示物の紹介を行い、工夫を凝らしたたくさんの作品を交流することができた。



## V. 部会研究の成果と課題

### 1. 成果

「健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして」の研究主題のもと、各ブロックが具体化した主題を設定し、研究を推進してきた。さらに、各ブロックの連携を深めることにも重点を置き、今日的な課題を共有し、より研究を深めることができた。

また、第二次研究協議会の分科会は、研究計画に基づく積極的な討議があり、様々な角度から、子どもたちの健康とは何かを考えるきっかけとなった。

実技・理論研修会においては、今の子どもたちに求められる健康課題の知識を深め、今後の実践に結びつく良い研修となった。

### 2. 課題

次年度は、多くのブロックで新たな研究に取り組むことになる。課題を明らかにし、研究の基礎を作り上げていきたい。また、横のつながりを大切にし、他ブロックの研究も積極的に学びとるとともに、それぞれのブロックの研究に生かしていくようにすすめていきたい。

( 文責 森子 華奈 )